

●第 36 回国際生理学会世界大会 (IUPS2009) 収支決算報告

第 36 回国際生理学会世界大会 (IUPS2009) は、2009 年、7 月 27 日～8 月 1 日、京都国際会館で開催され、無事終了しました。これも皆様のご理解とご協力の賜と心より厚く御礼申し上げます。

第 36 回国際生理学会世界大会の財務の基本方針は以下のようにしました。自助努力によって自己資金をできるだけ準備すること、開催準備金が必要なので中期的な資金計画を立てて、開催の数年前から支援資金を募ること、できるだけ多くの参加者を募りこれを収入の基盤とすること、世界大会の中心である学術発表に関する経費を十分に確保すること、発展途上国を中心とした若手研究者に対する補助を考慮すること、経費削減に努め華美にならないようにすること、以上を踏まえて資金を獲得することとしました。

1. 収入の部

IUPS2009 を日本で開催することが決定されて以来、日本生理学会で積み立てた 2,000 万円（国際生理学会積立金、賛助会費）を日本生理学会から IUPS2009 に拠出して頂きましたが、これには貸与分の 1,200 万円が含まれており、会期終了後に 1,200 万円を日本生理学会に返却しました。収支報告書の支出の部にこの 1,200 万円が計上されています。

日本生理学会会員の皆様には、支援資金（寄付）にご応募頂くようお願いしました。支援資金は日本観光振興機構 (JNTO) を窓口とし税制優遇措置を受けられるように配慮しました。支援資金は一口 5,000 円とし、現常任幹事と常任幹事経験者は 10 万円、評議員は 3 万円、一般会員には 1 万円以上のご協力をお願いし、分割納入ができるようにしました。一部非会員の方からもご支援をいただき、企業を除く支援資金は 3,700 万円になりました。これは当初の見込みを上回る金額です。

IUPS2009 の準備で一番力を入れた点は、世界各国からより多くの参加者を募り、また、発表演題を集め、できるだけ多くの方々に出席していただくことでした。そのために各国生理学会や

IUPS 本部役員にメールを送って海外からの参加登録者を増やすためのお願いをするなど、さまざまな招致活動を展開しました。その結果、4,089 名（うち有料参加者 3,860 名）もの参加登録者を得ることが出来、参加登録費収入が 1 億 1,700 万円になりました。これが財務の基盤になりました。

また、参加登録費は早期登録が 35,000 円、後期登録は 45,000 円、当日登録は 55,000 円、学生は 10,000 円とし、国際学会の参加登録費としては低額に設定し、多くの方に参加していただけるように配慮しました。

IUPS2009 は、事前折衝が順調に進んで、内閣府学術会議との共催で行うことができましたがそのために会場費のかかなりの部分と、レセプション費用と招聘外国人の滞在費の一部をご援助いただきました。

日本製薬団体連合会（日薬連）に対しても寄付金の申請をいたしました。日本生理学会が第 36 回国際生理学会世界大会開催のために積み立て金を準備したり、日本生理学会会員から支援資金を早い時期から募るなどの自助努力が認められ、3,000 万円のご援助をいただくことが出来ました。これは通常、日薬連が学会に対する寄付としては最高額です。

各財団には講演者の招聘費やシンポジウム助成費を各担当者が申請しました。

ランチョンセミナーは子供向けセミナーを入れて 21 を数え、3,000 万円を超える共催費を獲得することができました。

景気低迷の影響を受け、企業展示は目標としていた 100 小間の参加を得ることが出来ませんでした。69 小間の希望があり、毎日、大勢の人が展示会場に集まり、出展企業には好評でした。また、広告はホームページのバナー広告、プログラム集の広告などで、440 万円の収入がありました。

海外から多く演題を募集し、特に若手の優秀な研究者を支援するために、IUPS 本部からは、当初予定の倍額のトラベルグラント用資金として 10 万ドルを支給していただきました。また、国際プ

ログラム委員会 (ISPC) の開催費用の一部を IUPS 本部に負担していただきました。

2. 支出の部

支出の部は、事前準備(会議準備費)、会期当日(会議運営費)、事後処理(事後処理費)の経費の3つに分けてご報告します。

(1) 会議準備費

日本での開催が決まったのは、会期の8年前のことでした。その長い準備期間中には、IUPS 本部のプログラム委員が来日して、2回の国際プログラム委員会 (ISPC) を開催し、プロモーション活動の一環として、3部のサーキュラーを印刷しました。ポスターも2種類作製し、各方面にお送りしました。サーキュラーは、国内はもとより、海外の生理学会などにも積極的に送付いたしました。

参加登録、演題登録処理費用が登録数に応じて必要となり、参加登録数が多かったので、登録や演題処理に関する支出が予算を超えて増えました。また、募金の趣意書を作成するなどの経費がかかり、会議準備費として、8,800万円必要となりました。

(2) 会議運営費

IUPS2009は、2009年7月27日から8月1日の6日間に渡って、京都国際会館の12の講演会場と展示ホールを使用して行われました。7月27日の初日は、皇太子殿下をお迎えして開会式が行われ、海外からの参加者からも好評を得ました。支出の部には、皇室関連経費が計上されています。

28日からは口演とポスター発表が行われました。ポスター演題2,519題を含み全部で3,156題もの発表が行われました。海外から参加した若手演者36名に対しては、総額で1,470万円のトラベルグラントを拠出しました。

世界中から応募のあったレギュラーシンポジウムは、56のセッションに編成され、Whole-Dayシンポジウム、PSJシンポジウム、ワークショップ、チュートリアルなど全部で87セッションの講演が行われ、そのセッションを支援するために、28,608,805円を拠出しました。それでも全ての

セッションを十分に支援できませんでした。

会議を運営するために使った経費の主な内訳は以下ようになります。会場費、音響映像費、会場設営費、商業展示設営費、招待者の交通費・宿泊費、レギュラーシンポジウムなどの経費(これには源泉徴収分が含まれています)、プログラム集などの印刷費、看板装飾費、運営ディレクター・スタッフ経費、トラベルグラント、ウエルカムレセプションやコンgresディナーのアトラクションなどが主な出費です。会議運営費は、総額、1億6400万円かかりました。会期が長かったこと、多数のシンポジウム、ランチョンセミナー、一般演題発表があったので経費も膨らみました。

(3) 事後処理費

支出の部の事後処理の中に計上されている1,200万円は、冒頭にご報告しました様に、日本生理学会とIUPS2009組織委員会の契約書に基づき、使用しなかった分を日本生理学会に返却したものです。

また、国際生理科学連合 (IUPS) との同意書に基づき、10万ドルをIUPS本部に送金しました。経費節減に努め、会議運営も華美なことをしなかった結果、最終的に余剰金を残すことが出来ました。余剰金に対する税金(2,122,900円)を支払いましたが、さらに残った額の25%は、IUPSとの同意書に基づき、IUPS本部に送金し、残りの75%分(4,286,560円)は、日本生理学会に寄付することになりました。また、各方面にお礼状を発送し、アーカイブスを作成しました。

これらの仕事に対する事務局経費、会合費が必要となりました。また、税務処理に経費がかかりました。これら全てを包含した事後処理費は3,854万円となりました。

会計は、宮崎俊一監事、本間生夫監事の監査を受け、適切に経費処理されていることをお認めいただきました。

以上のように、第36回国際生理学会世界大会は皆様のご協力によって、大きなマイナスを出すことなく終了できました。IUPS2009組織委員会が発足したときの見込み予算は1億8,000万円でしたが、内容の濃い学会を目指して計画を何度も見

直していく中で予算も大きくなりました。国のご援助を入れると総予算3億円のプロジェクトであったということになります。日本生理学会が永年にわたって計画してきた一大プロジェクトが大きな欠損を出さずに終了できたことは幸いでした。これも、会員の皆様各位のご理解とご協力の賜であり、会員の和がこの世界大会を成功に導いたものと思います。

本大会の開催と成功のためにご尽力くださった全ての方々に感謝いたします。

平成22年6月7日

第36回国際生理学会世界大会
財務委員会

委員長：栗原 敏

副委員長：岡野栄之

委員：宮下保司，岡田泰伸，倉智嘉久，
御子柴克彦，加藤総夫，岡部正隆

第36回国際生理学会世界大会 収支報告書

(収 入 の 部)

	項目	内 容	金 額
I	自己資金		71,537,891
		日本生理学会よりの借入金(賃借契約書に基づき)	12,000,000
		日本生理学会より	8,000,000
		支援資金(JNTO宛会員 & 非会員)	37,957,455
		支援資金(JNTO宛企業)	10,960,000
		その他の寄付	2,620,436
II	登録費		117,322,000
		一般(Early)	35,000 円 2446 名 85,610,000
		一般(Late)	45,000 円 133 名 5,985,000
		一般(on-site)	55,000 円 157 名 8,635,000
		同伴者	10,000 円 147 名 1,470,000
		学生	10,000 円 977 名 9,770,000
		Congress Dinner	7,000 円 836 名 5,852,000
III	国費	日本学術会議 (全部で10,883,328円)	0
		会場使用料(借損料)として10,115,253円、 レセプション費用として294,000円、 招聘外国人滞在費として7名分、474,075円	内閣府より直接関係箇所に支払われた
IV	寄付金/助成金		35,100,000
		日本薬業連合会 助成財団	30,000,000
		井上科学振興財団	1,000,000
		上原財団	1,000,000
		上原記念生命科学財団平成20年度国際シンポジウム開催助成金	1,000,000
		細胞科学研究財団国際交流	500,000
		ブレインサイエンス振興財団海外研究者招聘助成金	200,000
		永井記念薬学国際交流財団	300,000
		内藤科学振興財団	600,000
		三共生命科学研究振興財団	500,000
V	共催費		33,535,925
		ランチョンセミナー等共催費	33,535,925
VI	商業展示		14,520,192
		企業展示	69 小間 14,435,000
		書籍展示	2 社 85,192
VII	広告費		4,410,000
		プログラム 表4	315,000 円 1 社 315,000
		表2	210,000 円 1 社 210,000
		表3	105,000 円 1 社 105,000
		後つけ 2ページ	210,000 円 1 社 210,000
		後つけ 1ページ	105,000 円 12 社 1,260,000
		後つけ 半ページ	52,500 円 18 社 945,000
		HP/バーナー広告	157,500 円 5 社 787,500
			210,000 円 2 社 420,000
		バーナースタンド	157,500 円 1 社 157,500
VIII	雑収入		735,390
		保育室 使用料	102,825 円 1 式 102,825
		キッズルーム 使用料	500 円 9 名 4,500
		その他	628,065
IX	IUPS本部より		13,500,060
		Travel Grantとして (10万ドル)	9,572,000
		1st ISPC IUPS負担分として	1,265,277
		2nd ISPC IUPS負担分として	2,195,859
		展示ブース関係費	466,924
収 入 合 計			290,661,458

(支出の部)

項目	内容	金額
I	会議準備費	88,038,952
	事務局費(2004年3月～2009年7月)	19,034,065
	国際プログラム委員会等開催費	5,387,305
	国内委員会(2005年1月～2009年7月)活動関係費	8,622,230
	印刷、広報関係費	20,820,110
	参加登録事務処理費	13,740,060
	演題処理費	17,128,484
	募金経費	3,306,698
II	会議運営費	164,082,430
	会場費	8,433,602
	音響映像・事務機器設備使用料 会場設営費	28,672,286
	皇室招請関係費	11,630,272
	ウェルカムレセプション、コンGRESディナー、アトラクション経費	15,637,317
	招待者交通費	5,690,946
	招待者宿泊費	3,032,500
	レギュレーション・シム、チュートリアル、ワークショップ支援金(源泉徴収分を含む)	28,608,805
	トラベルグラント	14,700,000
	市民公開講座関連費	895,414
	印刷製作関係費(プログラム集、CD-R抄録集)	12,991,880
	看板装飾	5,292,985
	商業展示関係費	8,513,960
	運営ディレクター、スタッフ関係費	13,068,750
	託児所、キッズルーム運営費	1,006,045
	警備費	660,450
	手数料(クレジットカード等)	2,940,520
	手数料(国際観光振興機構、JNTO)	2,306,698
III	事後処理費	38,540,076
	事務局委託費	1,941,400
	会合費	798,976
	会計検査報告、税務処理	1,050,000
	国際生理科学連合(IUPS)へ(同意書に基づき 100,000ドル)	9,169,000
	国際生理科学連合(IUPS)へ(同意書に基づき 純利益の25%)	1,428,854
	日本生理学会へ 返却(賃借契約に基づき)	12,000,000
	日本生理学会へ(余剰金の寄付)	4,286,560
	税金(余剰金に対する税金)	2,122,900
	礼状発送、報告書作成、各種手数料	5,002,571
	アーカイブス関連費	739,815
	支出合計	290,661,458

監査の結果、記載内容のとおり経費処理がなされている。また、支出等に対する証憑等適切に処理されていることを報告いたします。

平成 22 年 5 月 12 日
第36回国際生理学会世界大会組織委員会

監事 宮崎 俊一



平成 22 年 5 月 13 日
第36回国際生理学会世界大会組織委員会

監事 本間 生夫



第36回国際生理学会世界大会 統計

トラベルグラント受賞者数

アジア	59 名
アフリカ	7 名
オセアニア	13 名
西欧	30 名
東欧	6 名
南米	8 名
北米	13 名
	<u>136 名</u>

特別講演者数

Special Lecture	17 名
Named Lecture	7 名
PSJ Named Lecture	5 名
	<u>29 名</u>

シンポジウム数

Whole Day Symposium	17
PSJ Symposium	7
Regular Symposium	56
Workshop	4
Tutorial	3
	<u>87</u>

シンポジウム講演者数

日本人	162 名
外国人	384 名
	<u>546 名</u>

ポスター演題数

日本人	1281 題
外国人	1238 題
	<u>2519 題</u>

総演題数(抄録集に掲載された演題)

Named Lecture	7 題
Special Lecture	17 題
PSJ Named Lecture	5 題
Regular Symposium	324 題
Wholeday Symposium	182 題
PSJ Symposium	40 題
Workshop	21 題
Tutorial	6 題
Poster Presentation	2519 題
Luncheon Seminar	35 題
	<u>3156 題</u>

Meet-the-Lecturers数およびそのLecturer数

セッション数	2 回
Lecturer数	6 名

ランチョンセミナーセッション数 21 (子供向けランチョンセミナー含む)

ランチョンセミナー演題数 35 題

広告応募社数

プログラム 表4	1 社
表2	1 社
表3	1 社
後つけ 2ページ	1 社
後つけ 1ページ	12 社
後つけ 半ページ	18 社
	<u>34 社</u>

ホームページバナー広告 7 社

企業展示出展社数 42 社

海外学会出展社数 4 社

支援金応募者数

金額 48,917,455 円

会員	709
非会員	12
企業	49

支援資金寄附金納付者の割合

H21.7.31現在

	総数	納付者数	%
評議員	1,067 名	526 名	49
内 常任幹事経験者	129 名	105 名	81
一般会員	1,930 名	183 名	9

市民講座参加者数 200 名